

# Phantom Edge

## TEXT -Gallery PARC

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に京都精華大学大学院芸術研究科博士前期過程洋画専攻修了した田中真吾(たなか・しんご/1983年・大阪生まれ)は、在学中から現在に至るまで、その制作の中心に「火」を据えています。

「焼失(破壊)」という不可逆的な事象から、『消失』の側面から捉えられることの多い「火」について、田中はその本質をひとつとするのではなく、多様でいて未だ正体を捉えることのできないものとして、様々な観点から「火」を見つめ、作品に取り込んでいます。

漆喰パネルの上で画用紙を燃やし、煤や焦げといった火の痕跡によって描画を重ねた最初期の平面作品をはじめ、積層した紙の塊を燃やし、花卉のように開いた灰を見せる立体作品《trans》。1枚の紙片が燃え尽きる経過を長時間露光により撮影した《trace》などの写真作品。無数のビニルやフィルムなどを画面上で融解させ、それらをまるで絵具のように扱いつつながらひとつのオブジェクトへと変貌させる近年の《meltrans》などは、田中が火を『消失』のみならず『変化』や『融合』、『生成』の現象として捉えている視点を見て取れます。

田中は、「火とはなにか?」という問いの答えを作品として提示するのではなく、火を意味や観念、物語や比喩、文学や科学に結びつけることなく、まず目の前の現象として見つめることで、「火とはなにか?」という曖昧で根源的な「問い」そのものを存在させようとしているようです。

本展において田中は、角材による矩形のベースに貼り重ねたベニア板を燃やす(消失)ことで、そこに現れた(生成)された黒のエッジや、煤によるグラデーション、露わになった奥の構造を手がかりに、さらに行為(構成・再配置)を繰り返した作品《re:trans(P.E.)》を発表します。

これは「必然・偶然」、あるいは「行為と現象」の曖昧なやりとりの痕跡であり、その折り重なり(プロセス)を追いかけようと、作品の部分・全体を見ることは、田中と火による無言の対話を想像で手繰るような感覚を覚えます。

田中の作品は火をプロセスに持ちますが、私たちが目にすることができるものはいわばその痕跡としての焦げ・炭・灰でしかありません。しかし、だからこそ鑑賞者は、かつてそこにあった火を、自身の経験や体験によって想うことで、見えない火を見ることができるのではないのでしょうか。また、それは田中と火の対話を想うことでもあり、あるいは鑑賞者と火の対話をもそこに見ることができるのではないのでしょうか。

本展では大作となる新作をはじめ、紙を燃やして出た灰を用いたドローイング作品《UNTITLED》、廃棄物や自身の過去作などを解体し、組み直し、火を与えることで、かつての用や意味を崩し、新たな存在へと変換する《re:trans》シリーズの作品を合わせて展示いたします。

必然と偶然、意味と無意味の狭間に揺らめく炎を、私たちがいつまでも眺めていられるように、田中の作品の鑑賞が、鑑賞者の中に「火とはなにか?」という曖昧で終わりのない問いを巡らせる時間となれば幸いです。

## Artist Statement

Phantom Edge

やっていることはシンプルだと思う。

矩形の中でベニアと角材を張り重ねていき、ある程度のボリュームを持ってきたら燃やす。そこで生まれる黒のバランスを見ながら新しい木材を重ね、更に燃やす。その行為をただただ繰り返す。当然だが、燃えきった木材は脆くなり、焼け落ちる。その瞬間に黒は空白へと転じ、面は縁(edge)へと変化する。

制作を続けるうち、ふと、いま自分が何をしているのか分からなくなる。

この作業は「壊している」のか「作っている」のか、それとも「描いている」のか「削っている」のか、分からなくなる。

何かしら形として積み上がっていく以上、大局的に見れば「作っている」という言葉に集約されていくとしても、そこに至るまでの一手一手は、常に二極を等値として含み続けている。「壊す」だけでなく「作る」だけでもない、「描いてから削る」でもなく「削ってから描く」でもない。その同時発生性。

それは、「壊しながら作る」であり、「作りながら壊す」でもあるという矛盾を抱えながら、自らの選択をどこで行うのかと問い続けることである。

何も明確ではない。何か一つでは言い切れない。その曖昧さを肯定すること。

行為が積み上がった果てに立ち現れてくるものが何なのか、いまだ私は適切な言葉を持たないが、そのような結果にも人の想像力は働きかけ、視覚は何かを見つけ出そうとする。穿たれた空白に失われた面の広がりや想像し、露になった重なり新しい奥行きを感じ取る。そうした作品とのやり取りの中から、表現と言葉の可能性を探していきたいと思う。

田中真吾

## C.V

### 田中真吾

- 1983 大阪府生まれ
- 2006 京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業
- 2008 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期過程洋画専攻修了

### SOLO exhibition | 個展

- 2016 ひかりをみる(ギャラリー揺/京都)  
- meltrans (eN arts / 京都)
- 2015 N01-えし 意識う品- (eN arts)
- 2014 すあ。ら火一見極 (eN arts)
- 2013 かぎろいの輪郭 (eN arts)
- 2012 繋ぎとめる/零れおちる (eN arts)  
- 白の解態 (studio90 / 京都)
- 2011 識闇にふれる (eN arts)
- 2010 踪跡 (INAX GALLERY 2 / 東京)
- 2009 灯に照らされた闇 (studio90 / 京都)  
- 夢と現 (eN arts)
- 2008 臉をつたう (shin-bi / 京都)  
- ほどける距離 (ART SPACE NIJI / 京都)
- 2004 文明の二重奏 (CITY GALLERY / 大阪)

### GROUP exhibition | グループ展

- 2016 TAMAVIVANT II 2016 (多摩美術大学)  
- eeny,meeny,miny,moe | orange (eN arts)
- 2015 Celsius (CASHI° / 東京)
- 2014 eeny,meeny,miny,moe|red (eN arts)
- 2013 TSCA Rough Consensus (ANTEROOM KYOTO / 京都)  
- 科学のあとに詩をかくこと (京都精華大学7号館)
- 2011 UNITED (eN arts)
- 2010 BIWAKO BIENNALE 2010 (近江八幡/滋賀)
- 2009 □△ハコトリ (函館 / 北海道)
- 2008 Black State (STUDIO J / 大阪)  
- ART COURT FRONTIER #6 (アートコートギャラリー / 大阪)

### Text | 論文

- 2015 『アルベルト・ブツリが獲得したコラーージュの独自性』 京都精華大学紀要 第46号

## WORKS

### 01 UNTITLED

2017 H297×W210 paper

### 02 re:trans #047

2015 H250×W240×D50 mixed media

### 03 re:trans(P.E.) #02

2017 H1,700×W5,000×D150 mixed media

### 04 re:trans(P.E.) #01

2017 H650×W400×D70 mixed media

### 05 re:trans #048

2015 H210×W160×D35 mixed media

### 06 UNTITLED

2017 H297×W210 paper

### 07 re:trans #044

2015 H120×W1,580×D60 mixed media

